

7.

指導を充実させるための地場産物の活用

学校給食は、児童生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、児童生徒の食に関する正しい理解と適切な判断を養うものである。

また、学校給食に地場産物を活用したり、地域の郷土食や行事食を提供することを通じ、地域の文化や伝統に対する理解と関心を深めるといった教育効果が期待できる。

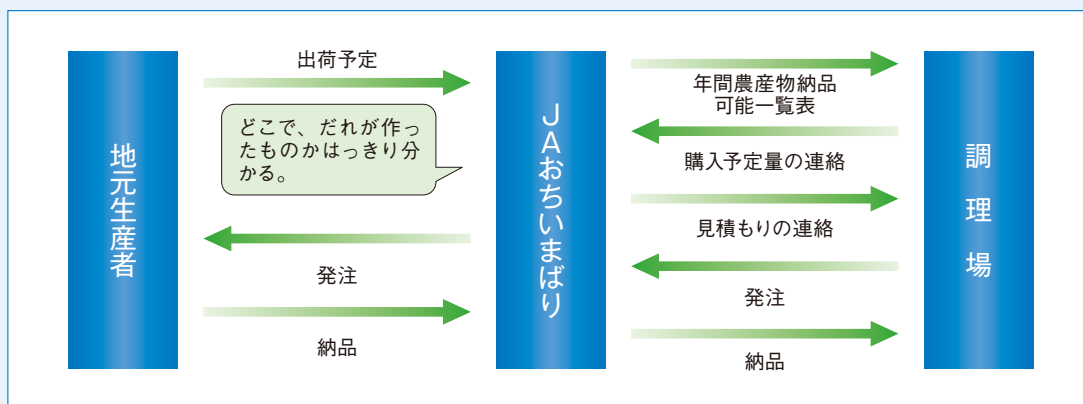
〈学校給食に地場産物を活用することによって期待される効果〉

- 児童生徒が、より身近に、実感をもって地域の自然、食文化、産業等についての理解を深めることができる。
- 食料の生産、流通等に当たる人々の努力をより身近に理解することができる。
- 地場産物の生産者や生産過程等を理解することにより、食べ物への感謝の気持ちを抱くことができる。
- 「顔が見え、話ができる」生産者等により生産された新鮮で安全な食材を確保することができる。
- 流通に要するエネルギーや経費の節減、包装の簡素化等により、安価に食材を購入することができる場合があると同時に、環境保護に貢献することができる。
- 生産者等の側で学校給食を始めとする学校教育に対する理解が深まり、学校と地域との連携・協力関係を構築することができる。

(学校給食における地場産物活用事例集平成18年2月文部科学省)

実践例(今治市立桜井小学校)

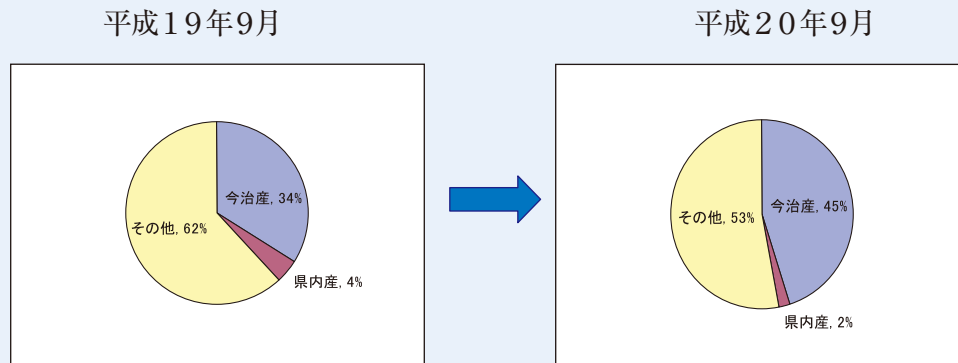
○ 地場産物を学校給食に活用するためのシステムづくり



(効果)

学校給食に新鮮な地元産の野菜を仕入れられるようになり、顔が見え、話ができる校区の農家からねぎや小松菜が納品されるようになった。

学校給食での、地域産の野菜の使用割合が増加した。



○ 学校給食を活用した指導の工夫

校内放送での紹介、地産地消コーナーの設置

(効果)

給食時間に担任等から地場産物の話を聞いたり、地場産物を確認しながら給食を食べることができ、旬の野菜や郷土に関心を持ち、生産、流通、消費など食料事情等について理解を深めることができた。

○ 野菜を使ったリクエスト献立の実施

(効果)

野菜を使った料理を考えるために家族に聞いたり、自分で調べたりすることが野菜についての知識を深めることにつながった。

○ 食育標語の募集

地域の人・もの・食材に感謝して 今日にも元気に「いただきます」

(効果)

親子で話し合いながら標語を考えたり、標語を横幕にして地域に紹介したりすることで、児童や保護者、地域の方々の食に対する関心を高めることができた。

○ 食に関する指導の全体計画への地場産物活用の位置づけ

(効果)

学校給食で使用する地場産物を、給食の時間、各教科等における指導の教材として活用でき、地元の農産業等を理解するきっかけになった。